










特集展「ペルシアの陶器-色と文様」作品リスト 2018.12.8.-2019.2.11.

作品番号	品名	時代	法量(cm)	地域	登録番号	備考	
1	青緑釉把手付瓶 せいりよくゆうとつてつきへい	1~3世紀	h:19.8	メソポタミアまたはイラン西部	02379	高田早苗氏寄贈	
	PITCHER, Pottery with blueish-green glaze	1st-3rd century	d:14.2	Mesopotamia or Western Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	<p>アルサケス朝パルティア(前247~後224)中期の紀元前後頃から生産され始めたアルカリ釉系の青緑釉陶器です。アルカリ釉はメソポタミア起源のもので、口縁部をつまんで注ぎ口とした把手付きの瓶も、古代地中海やメソポタミアなどで広く行われた器形です。この時期の陶器は、主にメソポタミアに隣接するペルシア西部で発見されており、産地もこの地域に集中していたと考えられます。淡褐色の粗い胎土を厚作りし、緑味の強い釉を胴裾まで二度がけしています。底部は平底露胎、釉表の一部に銀化が認められます。</p>						
2	青緑釉双耳壺 せいりよくゆうそうじつぼ	7世紀	h:26.0	メソポタミア	02483	5代尾形周平氏遺贈	
	JAR WITH TWO HANDLES, Pottery with blueish-green glaze	7th century	d:22.0	Mesopotamia		Bequest of Mr.OGATA Shuhei, the 5th	
	<p>西アジアに伝統的なアルカリ青釉の壺で、平坦に作った頑丈な双耳と二段になった平らな口縁部に特徴があります。釉は二度がけされ、胴部半ばに釉溜りが生じています。土中であつたためか、ほぼ全面に銀化がすすみ、美しい光沢が見られます。胎土は紅褐色で粗く、底部は平底で全面露胎。このように装飾がなく実用的な形の壺や鉢などは、広く西アジア一帯で長い期間にわたって生産されていました。</p>						
3	緑釉燭台 りよくゆうしよくだい	11~12世紀	h:11.2	イラン西部	02484	尾形周平氏遺贈	
	LAMP, Pottery with green glaze	11th-12th century	w:12.1	Western Iran		Bequest of Mr.OGATA Shuhei, the 5th	
	<p>高脚、承盤、把手をもち、携帯が可能な実用器です。本器のような燭台は、西アジア特有の器形とされ、青釉、多彩釉などでの作例も知られます。胎土に白化粧をせず直接施釉して焼成しているため、釉は暗緑色の発色となっています。やや黄味をおびた胎土は、イラン西部の陶器の特徴の一つとされています。</p>						
4	多彩釉刻線文鉢 たさいゆうこくせんもんはち	9~10世紀	h:11.8	ニーシャープール	02454	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with incised decoration, polychrome glaze	9th-10th century	md:35.3	Nishapur		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	<p>淡褐色の胎土に白化粧をして幾何学文を線刻し、鉛釉系の緑釉、褐釉、紫釉、透明釉などをかけて焼成したものです。白化粧の上に鉛釉をかけ分ける手法から、唐三彩や遼三彩との関わりが指摘されています。多彩釉陶はエジプトからメソポタミア、イラン、中央アジアにかけて広い範囲での作例があり、産地によって特徴が異なります。本作品は、胎土の色や胴裾と高台内を深く削った器底部の作りなどから、イラン東部ニーシャープール周辺の産と考えられます。</p>						
5	白地多彩鳥文深鉢 しろじたさいとりもんふかばち	10~11世紀	h:8.0	ニーシャープール	02384	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with painted birds design on white slip, transparent glaze	10th-11th century	md:18.4	Nishapur		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	<p>口縁部が立ち上がった深鉢の内面に、白地に黒、緑の顔料で鳥の姿を大胆にデフォルメして描いており、他の鉢類とは全く異なる印象となっています。イスラームの教えでは、人間が生物の描写や造形をすることは神への冒瀆であるとして、宗教関係の建築、美術、工芸などへの表現が固く禁じられました。しかし、世俗的なものには行われており、陶器生産においても日用の器物にはこのように生物の姿が表わされたものが残っています。</p>						

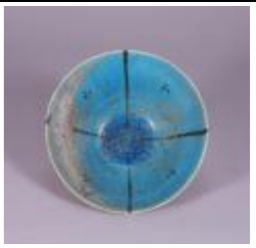



特集展「ペルシアの陶器-色と文様」作品リスト 2018.12.8.-2019.2.11.

6	白地多彩倣文字文鉢 しろじたさいほうもじもんはち	9~10世紀	h:7.0	ニーシャープール	02412	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with painted stylized inscription design on white slip, polychrome glaze	9th-10th century	md:22.5	Nishapur		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	内面に白化粧をし、見込みと内側面四箇所にアラビア文字をモチーフ化したものを、間に花文を描き、透明釉、緑釉、黄釉などをかけたものです。文字風の文様は先端部を変形させて鳥の頭部のようにも見えます。イスラーム美術では、神への賛辞や吉祥の句などを文様とともに表わすことがしばしば行われますが、本作では文字の本来の形をとどめないほどに変形が進んでいます。見込みに目跡が三箇所残っています。						
7	白地多彩倣文字文鉢 しろじたさいほうもじもんはち	10~11世紀	h:7.9	ニーシャープール	02393	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with painted stylized inscription design on white slip, transparent glaze	10th-11th century	md:19.8	Nishapur		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	内外全面に白化粧をし、茶、橙などの顔料で文様を描いた後、その上をさらに線刻して透明釉をかけたものです。文様はアラビア文字のうち、クーフィー体という角ばった荘重な書体をモチーフ化して口縁部に内向きにめぐらせ、見込みに花文を描いています。建築や美術、工芸品に描かれたアラビア文字は、祝福や祈願などの意味の銘文ですが、ここでは原形をとどめず、中央の花文を中心にして全体が一つの大きな花のようにも見えます。						
8	黒地多彩花文鉢 くろじたさいかもんはち	9~10世紀	h:6.5	ニーシャープール	02382	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with dotted flower design on black slip, transparent glaze	9th-10th century	md:21.4	Nishapur		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	淡褐色の胎土に黒色スリップを施した後、白泥や赤、緑の顔料を点状に置いて花文を描き、やや黄みを帯びた透明釉をかけたものです。黒地に花、鳥、文字などの文様を描いた一群のものは、ニーシャープールを中心としたイラン東北部の産と考えられていますが、類品は中央アジアでも確認されています。黒泥と透明釉は外側面半ばまでかけられ下半部は露胎です。底部はほぼ平底で、内側をごく浅く一周削っています。						
9	褐地白彩唐草文鉢 かつじはくさいからくさもんはち	11~12世紀	h:9.8	東北イラン	02388	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with white painted scroll design on brown slip, yellowish transparent glaze	11th-12th century	md:32.3	Northeast Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	淡褐色の胎土に褐色スリップを塗り、白泥で文様を描き透明釉をかけて焼成したものです。円形と菱形の窓の輪郭を幅広く地色で残し、窓の内側と背景の部分を唐草文で埋めたユニークな文様構成となっています。透明釉が黄みをおびているために文様部分が黄土色に現われ、他とは異なる落ち着いた色調に仕上がっています。畳付を含めた全面に化粧土と釉がかけられ、見込みに目跡が三個残っています。						
10	白地緑彩刻線幾何学文鉢 しろじりよくさいこくせんきかがくもんはち	11~12世紀	h:8.2	アーモル	02410	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with incised decoration on white slip, green and transparent glaze	11th-12th century	md:19.3	Amol		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	紅褐色の胎に白化粧をし、線刻を加えて透明釉と緑釉をかけて焼成したものです。褐色の刻文と緑釉が白地に映えて、簡潔な文様を効果的に際立たせています。彩画と刻文を併用したタイプは、11世紀以降に始まったと考えられます。イラン北部のマーザンダラーン地方アーモルで多数発見され、「アーモル手」と呼ばれてきました。現地の窯址で陶片が確認されていますが、他にも出土地があり、複数の産地があった可能性があります。						

特集展「ペルシアの陶器-色と文様」作品リスト 2018.12.8.-2019.2.11.

11	ラスター彩幾何学文鉢 さいきかがくもんはち	9~10世紀	h:7.4	メソポタミア	02389	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with luster painted decoration on white glaze	9th-10th century	md:22.4	Mesopotamia		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>錫白釉器の上に酸化銀、酸化銅などの金属顔料で絵付けをして低火度で二次焼成したものです。文様部分が金属のように輝くことから、ラスター彩(luster=輝き)と呼ばれています。8~9世紀頃に、ガラスの装飾技法を基にしてメソポタミアで始まったとされる技法で、ペルシアでは12世紀以降、特に発達しました。初期のものは複数の金属顔料を用いて文様を描いたものが多く、本作品もこの時期のものに属します。内面は放射状線を四方に描き、その間に幾何学文を配し、外面は三箇所二重円圏を描きその内外を線状の文様で埋めています。</p>							
12	白地多彩鳥文盤 しろじたさいとりもんばん	11~12世紀	h:5.7	ゴルガーン	02387	高田早苗氏寄贈	
	DISH, Pottery with painted bird design on white slip, transparent glaze	11th-12th century	md:28.8	Gorgan		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>赤褐色の胎土に白化粧をし、太い黒線で鳥や花を描き、赤、黄、緑の顔料で彩色をした盤です。黒線には白泥で連珠が加えられます。このような文様構成の鉢類は、イラン北部マーザンダラン地方のサーリー周辺で出土したという情報から、かつて「サーリー手」と呼ばれていましたが、現地では未だ窯址は確認されていません。一方で東部のゴレスターン地方ゴルガーン遺跡で類品が多数出土しており、産地としての可能性はこちらのほうが高いとされています。本器はこの種のものでかなり大型の部類に属するものです。大きな嘴と頭頂部の飾りを持つ特徴のある鳥は、サーサーン朝の金属器や織物などに表わされていたゾロアスター教の吉祥の鳥の姿を継承したものと考えられます。</p>							
13	青釉押型文字文双耳壺 せいゆうおしがたもじもんそうじこ	12~13世紀	h:23.5	北~中部イラン	02403	高田早苗氏寄贈	
	JAR WITH TWO HANDLES, Pottery with stylized inscription design in relief, blue glaze	12th-13th century	d:20.7	Northern~Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>ペルシアの陶器生産は、12~13世紀に技術的に大きな変化を遂げ、最盛期を迎えました。その変化の一つに、陶土にガラス質の粉を混ぜて複合陶土とすることにより、従来この地域にはなかった白い土の陶器が生まれたことがあります。本作品はその白い胎に、西アジア特有のアルカリ・ソーダを基本材料とした青釉が美しく発色した双耳壺です。壺の肩には、文様化したアラビア文字と唐草を組み合わせた装飾が浮彫り風に表わされています。把手の上部には鋳を写したと思われる円形の飾りが貼り付けられており、金属器に由来する器形であると考えられます。青釉陶器の産地としては、カーシャーン、レイ、ゴルガーンなどが確認されています。</p>							
14	青釉鑄文四耳壺 せいゆうしのぎもんしじこ	12~13世紀	h:16.0	北~中部イラン	02402	高田早苗氏寄贈	
	JAR WITH FOUR HANDLES, Pottery with blue glaze	12th-13th century	d:15.3	Northern~Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>口縁部の四箇所に、珍しく横位置の耳が付く壺です。胴の全面には、縦方向に鑄文が表わされており、四耳の鋳飾りとともに金属器の形と装飾を写したものと考えられます。銅呈色による青釉は二重掛けされており、胴裾に大きな釉溜まりができる一方で、釉層の薄い部分には銀化が生じています。内部も全面に施釉されています。底部は高台内を浅く内割りし、全面露胎となっています。</p>							
15	青釉刻線葉文多口壺 せいゆうこくせんようもんたこうこ	12~13世紀	h:22.5	北~中部イラン	02401	高田早苗氏寄贈	
	JAR WITH MULTIPLE SPOUTS, Pottery with incised decoration, blue glaze	12th-13th century	w:14.2	Northern~Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>胴部に複数の小型の壺が付く、子持ち壺とも呼ばれる器形で、セルジューク朝(1037~1157)に始まりサファビー朝(1501~1736)まで続きました。小壺の内部は本体と通じています。用途としては、花瓶、灯火器などの説がありますが明らかではありません。小壺の器表には鑄文が表わされており、ガラス器か金属器を写したものと考えられます。胴に大きく葉文を線刻し、余白を蔓草文で埋めています。全面に釉が流れ、胴裾に大きな釉溜まりができています。</p>							

特集展「ペルシアの陶器-色と文様」作品リスト 2018.12.8.-2019.2.11.

16	青釉黒彩鉢 せいゆうこくさいはち	12～13世紀	h:7.7	北～中部イラン	02416	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with black painted decoration, blue glaze	12th-13th century	md:17.7	Northern~Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	複合陶土により成形された鉢です。器形、大きさ、輪状の高台など、それ以前のペルシア陶器には例のないもので、当時盛んに輸入されていた中国宋時代の陶磁器の影響によるものと考えられます。見込みに黒彩で圏線と花文風の文様を表わした後、青釉をかけて焼成しています。外側面下半分は露胎となっています。						
17	青釉黒彩瓶 せいゆうこくさいへい	12～13世紀	h:13.8	北～中部イラン	02485	5代尾形周平氏遺贈	
	VASE, Pottery with black painted decoration, blue glaze	12th-13th century	d:8.9	Northern~Central Iran		Bequest of Mr.OGATA Shuhei, the 5th	
	複合胎土により成形された、頸部がラッパ状に開き、胴部が張った小型の瓶です。頸部と胴部に黒彩で文様を粗く描き、高台部分を残して青釉をかけています。青釉は全面に銀化し、光沢を生じています。特に口縁部に一周塗られた黒彩の部分は、光沢により、金属の覆輪のような印象を与えています。						
18	青釉黒彩鉢 せいゆうこくさいはち	12～13世紀	h:6.1	北～中部イラン	02488	5代尾形周平氏遺贈	
	BOWL, Pottery with black painted decoration, blue glaze	12th-13th century	md:13.8	Northern~Central Iran		Bequest of Mr.OGATA Shuhei, the 5th	
	複合陶土による鉢で、高めの輪高台、腰部の面取など中国陶磁の影響が見られる器形です。見込みを大きく四分割し、黒彩でいずれも簡略化した植物文と文字を表わした後、青釉をかけて焼成しています。外側面にも粗い植物文が描かれています。下半分は露胎となっており、黒彩が直接見える箇所があります。						
19	白釉藍彩鉢 はくゆうらんさいはち	12～13世紀	h:7.5	レイまたはカーシャー	02414	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with white and blue glaze	12th-13th century	md:17.5	Ray or Kashan		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	複合陶土による鉢で、輪高台、胴裾の面取などの特徴は、中国陶磁の腰折れ鉢を写したのと考えられます。高台と外側面の下半部以外にアルカリ釉系の透明釉をかけ、見込み部分には釉上に藍釉を線状に流しがけしています。透明釉の全面に細かい貫入とラスター現象が生じています。白釉藍彩陶器には、線刻、透彫り、型押しなどの様々な装飾技法を加えた作例もあります。						
20	白地藍黒彩花文鉢 しろじらんこくさいかもんはち	12～13世紀	h:9.5	カーシャー	02404	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with painted flower design in blue and black, transparent glaze	12th-13th century	md:21.6	Kashan		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
	複合陶土による鉢で、輪高台、胴裾の面取などの特徴は、中国陶磁の腰折れ鉢を写したのと考えられます。釉下に黒彩で内面には文字文様帯と花文が、外面には唐草文が描かれ、細部にコバルト顔料が加えられています。高台以外の内外面に施釉していますが、風化が著しく全面に銀化が進んでいます。複合陶土は薄作りに適した白色土で、アルカリ釉との融着がよいため、このように細い線描による釉下彩が可能となりました。						

特集展「ペルシアの陶器-色と文様」作品リスト 2018.12.8.-2019.2.11.

21	白地藍黒彩花文鉢 しろじらんこくさいかもんはち	17～18世紀	h:7.6		02409	高田早苗氏寄贈	
	BOWL, Pottery with painted flower design in blue and black, transparent glaze	17th-18th century	md:19.7			Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
<p>ペルシア陶器の生産はティムール朝(1370～1507)の時期に一時停滞し、サファヴィー朝(1501～1736)になって復興したとされています。この時期には中国・景德鎮産の青花磁器の写しが盛んにつくられました。本器は、鉢の内外側面に藍彩、黒彩で異なる形の窓を設け、その中に草花文を描いたものです。器形、文様構成ともに中国の青花磁器を意識したものと思われすが、文様などの細部にはかなりの簡略化が見られます。</p>							
22	ラスター彩藍釉小壺 さいらんゆうしょうこ	12～13世紀	h:4.8	北～中部イラン	02427	高田早苗氏寄贈	
	JAR, Pottery with luster painted decoration on blue glaze	12th-13th century	d:5.5	Northern～Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
23	青釉黒彩小壺 せいゆうこくさいしょうこ	12～13世紀	h:4.0	北～中部イラン	02417	高田早苗氏寄贈	
	JAR, Pottery with black painted decoration, blue glaze	12th-13th century	d:5.7	Northern～Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
24	白地藍彩倣文字文小壺 しろじらんさいほうもじもんしょうこ	12～13世紀	h:4.7	北～中部イラン	02428	高田早苗氏寄贈	
	JAR, Pottery with reversed painted stylized inscription design, transparent glaze	12th-13th century	d:6.8	Northern～Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
25	青釉把手付瓶 せいゆうとつてつきへい	12～13世紀	h:8.0	北～中部イラン	02418	高田早苗氏寄贈	
	PITCHER, Pottery with blue glaze	12th-13th century	d:5.0	Northern～Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	
26	青釉面取小壺 せいゆうめんとりしょうこ	12～13世紀	h:4.5	北～中部イラン	02421	高田早苗氏寄贈	
	BEVELED JAR, Pottery with blue glaze	12th-13th century	d:5.0	Northern～Central Iran		Gift of Mrs.TAKADA Sanae	